

令和4年度 第1回教育課程研修会 報告書

1. 目的 高等学校新学習指導要領に基づく教育課程及び観点別学習状況の評価について理解を深め、課題及び進捗状況等について情報を共有する
2. 日時 令和4年6月29日(水) 午後1時20分～
3. 会場 静岡県私学会館 5階大会議室、3階小・中会議室
4. 対象者 40人(教務部長、教務主任等教務分掌の責任者及びこれに準じる教務担当教諭等)
5. 日程

13:20～ 開会式

部会長挨拶 静岡学園中学校・高等学校

校長 鈴木 啓之 先生

13:30～ 講義「高等学校新学習指導要領に基づく教育課程及び観点別学習状況の評価
について」

講師 静岡県総合教育センター総合支援部高等学校支援課

高校第2班班長(指導主事) 芳岡 遵一様

14:50～ 教務上の課題に関するグループワーク(メンバーを変え30分のワークを2回実施)

16:00～ 閉会

6. 内容

(1)部会長挨拶

- ・研修会実施の経緯と講師紹介

(2)講義

① 教育課程の編成

- ・卒業までに履修させる単位数74単位以上、1単位時間50分、35単位時間の授業を1単位とする。
- ・新学習指導要領における必履修科目と履修順序、減単位できる科目を確認した。
- ・学校設定科目は74単位中20単位まで含めることができる。
- ・専門学科は専門科目を25単位以上履修する必要がある。
- ・「現代の国語」「言語文化」は授業内容によって未履修になる可能性が高く、確認のため公立高校教務主任研修会で配付した『「現代の国語」「言語文化」における適切な教材の扱いについて』の資料が配付された。

② 観点別学習状況の評価

- ・そもそも評価は、学習指導要領に示す目標に基づき、生徒の実態に即して定めた目標や内容に照らしてその実現の状況を見る、「目標に準拠した評価」を行っているはずである。
- ・観点別学習状況の評価は既に4観点で行ってきたが、新たに3観点を記載することになり、各校も観点別学習状況の評価について再確認しているところではないか。
- ・観点別学習状況の評価は、目標に照らし観点毎に評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるものである。

- ・観点別学習状況の評価や評定には示しきれない生徒の良い点や可能性については「個人内評価」を積極的に行う。「学習評価の在り方ハンドブック」を参考にしてほしい。
- ・主体的に学習に取り組む態度は、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうか、という意志的な側面を評価するものである。
- ・指導と評価の計画を立てる段階から、評価場面や方法等を考えておくことが大切である。
- ・特別活動の評価については、達成できていれば○を付ける。
- ・公立高校の様子
 - ・10段階から5段階で総括することに変えた。
 - ・シラバスに評価規準等を掲載した。
 - ・入学式、オリエンテーション等で説明した。
 - ・定期テストで観点に配慮した出題をした。
 - ・振り返りシートを活用している。
 - ・評定平均が例年に比べ低くなりそうだ。
 - ・通知表に観点別学習状況の評価を記載する。
- ・令和4年度公立高校教務主任研修会で配付された「学習評価の参考資料 Volume2」がダウンロードできるQRコードの提供があった。

③ 事前質問に対する回答

- ・事前に出た11の質問について、質問内容とその回答の口頭伝達があった。
- ・よくある質問について、令和4年度公立高校教務主任研修会で配付された「学習評価に関するQ&A」の資料提供があった。

(3) グループワーク

30分のグループワークを2回実施し、以下のテーマで情報交換を行った。

① 観点別評価について

- 昨年実施した学校はどういう結果が出たのか。
- 観点別評価の実際の運用・現在の状況について
- 特別活動の評価について

② 主体的な取り組みの評価について

③ 定期テスト

④ 情報Ⅰの扱いについて

⑤ 1人1台端末について

報告者 副部会長 静岡学園中学校・高等学校教諭 坂本 裕之